

あゆみニュース



発行責任者 高柳勝巳 〒378-0055 沼田市柳町2583-8 ルピナス103号
☎&FAX 25-8062 Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com
ホームページ <http://www.ayumu-kai.jp/> 更新しました。



概要版 3月定例議会

基本的な政策議論 をしたかったのです



沼田市にとって基本的で重要なのに見送られてきた基本的な課題

沼田市の誇り

シビックプライドの醸成
千葉県流山市では、シビックプライドによる「人口流入」を図るため市長が、民間広告会社から専門人を招聘して「母になるなら流山市」をキーワードにして、首都圏の共働き世帯をターゲットに絞り、10年間で5万人の人口増に成功した事例を挙げ、論戦しました。

森林+環境政策

ゼロカーボン宣言都市
2050年には地球の状況は限界=プラネタリーバウンダリーに達して、人類や生命体の危機に直面すると国連が公表。森林環境税による収入を活用して、これまで不十分であった森林整備の再生を！と訴えました。

農業政策+給食

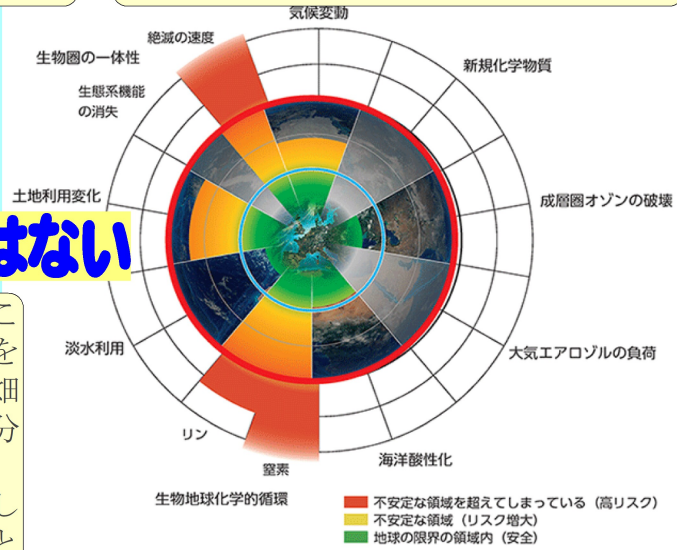
みどりの食料システム戦略
農水省も「惑星の限界点」を視野に農業の抜本政策の転換していくと公表しました。できるだけ早急に化学肥料を減らし、有機栽培を2050年には現在の0.6%から25%へとした目標を掲げました。いすみ市、羽咋市に続き豊岡市も学校給食を有機化しているの、「食と地域経済の循環」を訴えました。

私の危機意識 平和・環境・人権

地球という惑星が限界なのに 争いや自分勝手をしている場合ではない

地球自体が、限界点で悲鳴を上げている状態なのに、そこから目を背け、自分勝手な言動を繰り返す「勢力」が大手を振っているように見えます。私達は今、山に木を植え、田畑を丁寧に耕すことを、もう一度深く考えなくてはいけない分岐点に立たされていると考えています。

自分勝手の極みが戦争と考えますし、大人世代の責任として、平和と生存可能な地球を残し、誰にとっても生きることが楽しい「人権と教育」を再生させたいと思料しています。



環境省：地球の限界=プラネタリーバウンダリーより

これまでも！そして、これからも

継続中

今をチェック！明日をチェンジ！



本気で政策提言

必死で課題解決

②運動部活の「地域化」を契機に健康とスポーツの連携したまちづくりへ



NHK大阪 運動部活の放送より

数年後には、最低土日の部活は「学校から切り離れた」カタチになっていきます。「受け皿」づくりを取り組むと同時に、学校協議会を通じたコミュニティスクールへと「新しい学校文化」を創造します。



④隙間の拡大した福祉をつなぎ公務・公共関係者に生き甲斐を

これまでも課題になっていた福祉の担い手や人材不足。さらに縦割り構造により隙間も拡大し働く人にも利用者にも困った状態が重複しています。「生業」の方々の社会的なステータスを向上することを基本としながら、新たな視点で福祉を見直し、希望ある地域福祉の再生を目指します。



③学校給食の無償化と有機化で地位経済も好循環するまちへ

地球が危険な事態です。地域の貴重な資源＝農林業の再生を本気で目指すためにも、学校給食の有機化で、安心安全な地域経済を創出していきます。また、森林環境税を有効に活用して森林整備による地域循環も目指していきます。



「とくし丸」を始め増えてきた移動販売の拠点を各コミュニティセンターに設定し、買い物支援を充実させると共に、地域課題解決のための「居場所」として新たな役割や機能の充実を目指します。

⑦コミュニティセンターを活用し居場所づくりも買い物支援も

⑤インクルーシブ教育を取り入れ教える教育から学び合う共育へ

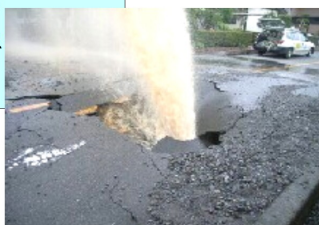
2045年には人工知能が人間を超えるとされるシンギュレーション（技術的特異点）を向えると言われています。集合型、画一型、記憶重視の教育の限界を認識し、多様性、主体性の上に感性、人間性を重視した「新しい共育」も展望していきます。

⑧市街地活性化はルートインと共に生活と観光が一体化した空間の創出へ



中心街は「道路」にも「店舗」にも活用できる「有効広場」がポイントになってきます。今秋オープン予定のルートインと、市街地全体で一体化して、まちの再活性化の相乗効果を発揮できる関係性を構築すべきです。

⑥公共施設と社会的インフラの老朽化対策はリノベーションで



浄水場の建て替えに約87億円が必要となります。これ以外にも必要な「公共物」が次々と更新期を迎えます。勇気ある取捨選択での対応が必要な時です。

①硬直し深刻化する従来社会を多様で重層的支援で未来社会へ